② 前提学習能力のは握

右端の学習タイプは，前提能力と下位テストの能力から判定したものである。下位テストは，まくらカバーに関する問題で，(1)は布の大きさの決定能力，(2)は目的に合った布地の選定能力，(3)は形の選定能力を調査したものである。

この資料をもとにして，ひとりひとりの児童の能力と，予想されるつまずきをは握し，授業計画に役立てるようにする。この学習タイプの左側の知能によるものは，Aが16名，Bが18名，Cが7名であった。右側の前提能力によるタイプではAが7名，Bが28名，Cが6名であった。紙面のつごうで全員についての記述はできないので，A・B・Cの各タイプから，抽出児童2名ずつの例を下へのせておく。

——前提能力と学習タイプの編成——

番号	氏名	家庭科成績	知能偏差値	前提能力	1の能力 正答3	下位テスト(1)の能力 正答3 正誤	理由	2の能力 正答4	下位テスト(2)の能力 正答4 正誤	理由	3の能力 正答1	下位テスト(3)の能力 正答1 正誤	理由	学習タイプ
1	K・Y (男)	5	67	11	×	×	すっぽりつつむのによい	×	○	見ためがよく，高くなくて気持がよい	○	○	まくらがはみ出さない	A5A
2	M・M (女)	4	55	12	×	×	ぬいしろを2cmずつとって	○	○	はだざわりがよくやわらかい。	○	○	まくらがぬけない。	A4A
3	S・H (女)	3	49	6	×	×	ぬいしろの長さがちょうどよい。	×	○	じょうぶそうだから	○	○	あらうのにかんたん	B3B
4	W・T (男)	3	56	10	×	×	ぬうところがないと困るから	○	×	ざらざらしない	○	×	かんたんだから	A3B
5	W・M (男)	2	39	5	×	×	少し大きいぐらいでよい。	○	×	(無　答)	○	○	使いやすい	C2C
6	T・K (男)	2	26	5	○	×	(無　答)	○	×	はだざわりがよい	○	○	くふうしているから	C2C

以下省略

③ 指導過程の展開例

本時は,「カバー類」の題材の総時数11時間中の第2時である。

1．本時のねらい

○カバーの種類と使用目的を理解させる。

○使用目的によって，材料や形・大きさにちがいのあることを理解させる。

ア．カバーが日常生活の中で数多く使われていることがわかる。

イ．カバーの使用目的がいえる。

ウ．使用目的に応じて材料や形・大きさにちがいのあることがわかる。

エ．まくらカバーに適した布地が選択できる。

オ．ゆるみとぬいしろの必要に気づく。

カ．まくらカバーのゆるみとぬいしろの適切な寸法を考えることができる。

2．過　程

段階	学習の流れ	時間	教師の働きかけ	予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎資料・評価
問題をとらえる	はじめ ↓ 全 1．使っているカバーの種類を話し合う。 ↓	5	○みなさんの家では，いろいろなカバーを使っていると思いますが，どんな物が使われているか話し合いましょう。	○各種カバーの名まえや用途について話す。	○事前に各自の家庭にあるカバーの種類や布地・色などについて観察させておく。
課題をきめる	全 2．学習課題の設定 ↓ Ⓐ		○きょうは，次の課題で話し合いましょう。 (板書)	○課題をノートする。	◎TPIカバーの種類 (事前テストより)